

科目名	基礎看護学実習Ⅰ (生活援助技術の実践)	教員名 宮下真理子 北島元治 看護学科教員	学科等	看護	必修	履修年次	1
(科目番号)	(時間割参照)		曜日・時限等	時間割表参照		単位数	1
			授業形態	実験・実習	オフィスアワー	各担当教員	
授業概要	看護の主要な対象である患者の治療、生活の場である病院の機能・概要を理解する。実際の患者とコミュニケーションをとり患者および患者の入院生活について理解を深める。学内での学習をもとに、実際の患者に対して基本的ニーズを充足するための援助の必要性を考え、日常生活援助を実践する。さらに、この体験をとおり看護に対する理解と関心を深める。						
目的・目標	目的:看護の対象である患者と患者をとりまく環境を理解し、日常生活の援助技術を体験する。						
準備学習							
授業計画	授業項目		到達目標・学習内容				
	到達目標						
	1. 病院の機能・概要を理解できる。 2. 入院患者の生活の場と、患者の日常生活を理解できる。 3. 学内で学習した共通基本技術、日常生活援助技術を実施できる。 4. 看護者としての基本的態度を身につけることができる。 5. 既習の知識と実習での体験を結びつけて、「看護とはなにか」について考えることができる。						
	学習内容						
	1. 病院の機能・概要を学習する。 1) 病院の沿革、理念、看護部の理念、看護方針 2) 院内の構造、施設、各部門の役割 2. 入院患者の生活の場と患者の日常生活を学習する。 1) 病棟・病室の構造・設備 2) 看護方針、看護体制他 3) 患者の日常生活の過ごし方 4) 基本的欲求の充足状況と患者が必要としている生活行動上の援助の理解 3. 学内で学習した共通基本技術、日常生活援助技術を実施する。 1) コミュニケーション技術 2) 感染予防・事故防止 3) 環境整備 4) バイタルサインの測定・観察 5) 清潔 6) 排泄 7) 移動・移送 4. 既習の知識と実習での体験を結びつけて、「看護とはなにか」について考える。						
	方法						
	数人ずつのグループに分かれて実習病院で臨床実習を行う。 学生は、患者とのコミュニケーションをとおり患者の入院生活について理解を深め、学内での学習をもとに、患者の日常生活援助を実施する。						
成績評価の方法・基準	実習内容が合格基準に達していること（実習評価表に基づきS～Dの5段階で評価。C以上を合格とする）						
教科書							
参考図書							
教員からのメッセージ	実際の患者様とコミュニケーションを取りながら、既習の技術を実践させて頂く初めての臨地実習です。知識・技術・態度ともに十分な準備、心構えをして臨みましょう。 臨床経験豊富な看護師資格を持つ教員がこの授業を担当します。						